

トロンボーン奏者

清水真弓 君

【しみず まゆみ】

慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部を経て、2004年理工学部物理情報工学科卒業。理工学研究科在学時のウィーン留学をきっかけに、トロンボーン奏者を目指す。フライブルク音楽大学、ベルン芸術大学にてブランニール・スローカーに師事。同時に2007～09年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団「カラヤン・アカデミー」に所属。2009年リンツ・ブルックナー管弦楽団に首席奏者として入団。2012年より南西ドイツ放送交響楽団首席奏者。初アルバム『ファンタジー』が2016年度CDショップ大賞クラシック賞、クラシックCDアワード2015第1位を受賞。



理工学部卒、 名門、南西ドイツ放送交響楽団首席トロンボーン奏者 世界を駆け巡り、楽器と音色の魅力を伝える

ソロのトロンボーンは
柔らかなで繊細な表現が魅力

——清水真弓さんは、理工学部出身のクラシック音楽トロンボーン奏者。現在は南西ドイツ放送交響楽団の首席トロンボーン奏者を務め、国内外で、ソロや室内楽でも活動しています。さらにプロを目指す人のためのワークショップや、宮城県名取市との共同プロジェクトで小中学生にトロンボーンに親しんでもらうための学校訪問を行うなど、トロンボーンの裾野を広げる取り組みも積極的に行っています。まず清水さんが感じているトロンボーンの魅力を教えてください。

清水 ピアノやヴァイオリンなどに比べると、トロンボーンに親しみを感ずる人は少ないかもしれません。しかし、実際に聴いてもらうとわかりますが、トロンボーンはふくよかで豊かな音を持ち、繊細な表現から迫力ある響きまで、いろいろな音を奏でることができます。オーケストラでは、金管楽器として、密度が高くて力強い、芯のある音を出すことが多いですね。一方、ソロでは、驚くほどデリケートな柔らかい音で細かなニュアンスを表現し、聴く人をしっとりと魅了することができます。



慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ国内演奏旅行にて
(前列中央が清水君)

——ピアノ伴奏のみのファーストアルバム『ファンタジー』は、数あるオーケストラやピアノ、ヴァイオリン曲のCDを抑えて2016年度CDショップ大賞クラシック賞を受賞。個性的で繊細な表現が魅力的です。10歳から始めたというのですが、きっかけは何だったのですか？

清水 私が通った小学校に熱心な音楽の先生がいて、さまざまな管楽器から成る音楽隊を作っていました。4年生でトロンペットを始めましたが、5年生のときに先生の勧めでトロンボーンに転向しました。身長が高く、腕も長かったので、管をスライドさせやすいから指名された

——と思っていましたが、後に先生は「音感が良かったから」と言ってくれました。トロンボーンは、唇の形のつくり方、息の吹き方の習得とともに、管を無段階でスライドさせて音の高さを変える、音感の良さがまず求められます。

その後、湘南藤沢中等部に入學しましたが、吹奏楽部に入部するクラスメイトに付き添って行ったところ、私がトロンボーン経験者と知った先輩から、強く勧誘されました。結局、部活申込書に記入していたバスケットボール部を修正液で消して、吹奏楽部に書き換えて入部しました。しかし、コンクールの練習で忙しい先輩からは放置され気味。退屈で、部室で本ばかり読んでいました。

つまらないからやはり別の部活に変えようか、などと考えていた7月のある日、部室からトロンボーンのとてもしい音色が聞こえてきたのです。1年間海外留学していた高校生の先輩が日本に帰国したのでした。こんなにすてきな音が出るんだと、私の中の何かが目覚めました。そして半年間練習を続けるうちに、以前よりいい音が出せるようになった自分を発見し、俄然楽しくなりました。

——そして中高と湘南藤沢の吹奏楽部で



リサイタルのリハーサル、振り付け付きの曲
©Shumpei Ohsugi

活躍したのですね。

清水 そうすんなりとはありません。中3の頃には、自分の演奏に自信を持っていたのですが、なぜか周囲は認めてくれない。それが悔しくて、ピアノのできる友達に伴奏を頼み、ソロのコンクールを受け始めました。部活中心の中学生では珍しかったと思います。実はかなりの負けず嫌いなのです。その後の修業時代も、私が壁を越えるきっかけは、いつも悔しさにあります。どうしてできないんだという、自分への腹立ちが、飛躍の原動力になっています。

研究か、トロンボーンか ウィーン留学後の結論は

——理工学部を選んだ理由は何ですか？

清水 トロンボーンで生きていくのは無理だろうと思っていましたから、音楽大進学は考えませんでした。父が理工大

学系の研究者というのがおそらく影響したとは思いますが、あまり深く考えずに理工学部に進学しました。それでもワグネル・ソサイエティー・オーケストラに入ることは決めていて、そのワグネルの活動拠点が日吉だから、近くで4年過ごせる矢上の理工学部には……これは言い過ぎかな(笑)。

学部では田中敏幸研究室、大学院では富田豊研究室に所属しました。学ぶことは嫌いではなかったのですが、なかなかこれだ、と情熱を傾けられる研究対象を見つけれず、今から考えれば本当に路頭に迷った学生だったと思います。先生方・研究室にはご迷惑をおかけしました。

一方で、ワグネルは大学生活の大部分を占めました。月水金の午後6〜9時が練習時間ですが、他の日も毎日楽器に触れていて、土日には別団体の演奏会にもよく参加しました。日本にはアマチュアオーケストラが驚くほどたくさんあり、いつもどこかで演奏会を開いています。団体や演奏会の日程によってはトロンボーンが足りないこともあり、頻繁に助っ人として呼ばれて忙しくも楽しい日々でした。

——本格的にプロを目指したのは、留学がきっかけだったそうですね。

清水 学部時代はオーケストラ漬けだったので、大学院でこそまじめに生命情報学の研究に取り組もうと進学したものの、どこかで音楽のことが忘れられず、研究にも迷いがありました。そこで、一度研究を離れて海外で自分を見つめ直そうと、ウィーンに半年間留学しました。一人暮



南西ドイツ放送交響楽団

らしは初めてだし、心細かったのですが、縁あって、ブラニミール・スローカーという世界的なトロンボーン奏者と出会う機会があり、彼の勧めでフライブルク音楽大学を受験して合格、弟子になることができました。この段階で初めて、改めてトロンボーンをやるしかない決心し、大学院を中退しました。

それまでは、敷かれたレールの上を進み、家族からも学校からも守られていました。しかし、音楽を選んだ以上、守ってくれる人も、逃げ場もありません。真剣にトロンボーンに向き合う日々が始まりました。

——ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団直属のカラヤン・アカデミーにも所属されたそうですね。

清水 オーケストラのアカデミーは、若い音楽家の育成を目的としています。オーディションに合格すると、首席奏者のレッスンを受けられ、ベルリンフィルの中で演奏する機会が与えられます。私も、サイモン・ラトル指揮の演奏会などで、何度かステージに上がる機会を与えられました。それまでのオーケストラ経験はワグネルとユースオケのみ。それがいきなりベルリン・フィルのステージですから、われながらびっくりしました(笑)。

トロンボーン奏者はソリストとしてだけでやっていくのは難しく、オーケストラに所属するのが基本です。団員公募に応募し、選ばればオーディションに招待されて演奏します。そこで合格するとようやく採用になります。このときカラヤン・アカデミーで得られた経験は、実績としてかなり役に立ちました。

リンツ・ブルックナー管弦楽団の首席奏者を経て、現在は南西ドイツ放送交響楽団の首席です。サイトウ・キネン・オーケストラに参加したこともあります。ただ、私はオーケストラだけでは満足できず、ソリストとして、あるいは仲間と一緒に積極的に演奏会を開いています。さらにトロンボーン古楽器であるサクソバットを練習し、古い曲の演奏にも取り組んでいます。

来年3月には、師匠が結成したスロー



師匠のスローカーと彼の住むスイスにて

カートロンボーン四重奏団の一員として、日本の全国各地で演奏します。

——ヨーロッパで学び、現地のオーケストラで活躍中ですが、さまざまな困難にも直面されたことだと思います。

清水 トロンボーン女性のプロ奏者はまだ少なく、オーケストラによっては敬遠されます。また応募の段階で、日本人だから不利なのかな、と感じることがないとは言えませんが、本当のところはわかりません。でも、基本は実力の世界。いい演奏をすれば認める人は認められます。私が所属してきたオーケス

トラでは国籍や性別に関する問題はありませんでした。逆に異文化から来た人間だと面白がられます。例えば、仲間をフライブルクの日本料理店に連れて行って、料理の説明をすると皆とても喜んでくれます。

——最後に今後のことと、塾生へのメッセージをお願いします。

清水 私はトロンボーンに出会い、湘南藤沢中・高の吹奏楽部、大学のワグネルを経て、トロンボーンで生きる決意をしました。これからもやりたいことを貫き、トロンボーンをもっとメジャーにしたいと思っています。

塾生の皆さんには、自分の好きなことに打ち込んで楽しく、充実した時間を過ごしてほしいですね。また義塾は塾員を含めて人材の宝庫です。さまざまな人からいろいろなことを吸収して、人間の幅を広げてください。私の場合は、ワグネルの仲間たちはもちろんですが、他のさまざまな分野において秀でている人たちが、素晴らしい財産になりました。何事においても真剣に打ち込んでいる人、何か強い芯や意志、興味を持っている人たちからは常に良い刺激を受けていますね。

——本日はありがとうございました。